

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

緑内障診療ガイドライン(第 5 版)

日本緑内障学会緑内障診療ガイドライン作成委員会（委員長：木内良明 広島大学大学院医系科学研究科視覚病態学）

日本眼科学会雑誌 126 巻 2 号、2022 年 2 月 10 日発行

Minds 掲載 有

■1 漢方薬

疾患：

緑内障

有効性に関する記載ないしその要約：

第 4 章 緑内障の治療総論に、下記の記載がある。

『現時点においては眼圧下降以外のいわゆる補完療法や代替療法、漢方薬やサプリメントが緑内障治療に有効とする信頼性の高いエビデンスはない。』